

【異常気象に勝つ！1等米多収穫栽培の決め手！】

- ◎田植後の「収量・品質を決定づける」もっとも重要な時期です！！
- ◎水稻育苗の厚播き、大苗の弊害である過剰分ゲツ対策が重要！
- ◎適切な水管理で、早期の**根張り拡大**と分ゲツ促進を実行しましょう！
- ※徒長苗、強風により、植傷みしている圃場では、早急な実施が必要です！！

実践① = ガス抜き

◆今年、4月から寒暖の差が激しい年です。アオミドロやガスの発生が見られたら酸素供給のために早めの水の更新やガス抜きが必要です！

- ①田植えから5月20日頃までは、アオミドロが発生し水が濁ったら水の更新をしましょう。（早めのガス抜き）
- ②5月20日～6月10日頃の好天時、ガスの発生が多く確認されたら2～3日間の完全落水によるガス抜き（2～3回）を実行しましょう。
👉 **ここポイントです！～定植苗の基部に低温刺激を受けるとホルモン活性が高まり発根力が促進されます！**

⇒2回目の除草剤を散布する前後に最低2回ガス抜きをします。
 ⇒ガス抜き完成の目安は、田面にガスの抜け穴が出来ればOKです。
 ⇒確認後、新鮮な水を入れましょう。
 ⇒この時期の、田面のヒビ割れは厳禁です。

*強風やガス障害を早めに回復させる為には
 { 10a当り【これだけでよし】10kg
 又は 河童の置きみやげ1～2kgの施用 }



（ガス抜き）

実践② = 光合成細菌によるガス抜き

- ◆入水時や中期深水管理時期に、光合成細菌(ブラドミンPSB)を10a当たり2ℓ流し込みましょう！
⇒ガスを分解しアミノ酸に変えます。ガスが抜け、根張りが良くなります。

実践③ = 分ゲツ促進！...特に疎植圃場！

- ◆一般圃場は、5月下旬～6月上旬の【これだけでよし】10kg/10aの施用が効果大です！

◆大規模圃場は流し込みによる対策が可能です。

10a当たり	・流し込みハイグリーンミルキー	15kg
	又は ハイポン	10kg
	・省力流し込み2号(15-5-5)	10kg
	又は 河童の置きみやげ(25-0-10)	1.0～2.0kg

